

GR

参考資料1



GAIA Annual Report 2023



2024年度リーダーの永井隼人です。

今年度、活動に参加させていただいた各団体の皆様、ありがとうございます！
多くの貴重な経験をすることができました！

GAIAの活動では、絶滅危惧種などの希少種を発見することができたり、
多様なメンバーとの交流を通じて環境に対する理解を広めることができ、
普段過ごしているだけでは得られない貴重な体験をすることが出来ます！

環境保全活動は「難しそう」というイメージを持つ方は多いと思いますが、
GAIAは楽しむことをモットーに活動しており、楽しく学び、
誰でも簡単に環境保全活動に参加することが出来ます。

毎回の活動が参加した人たちににとって良かったと思えるように、
2024年度もたくさんの方の活動に参加・企画していきますので、
一緒にGAIAで環境保全活動していきましょう！



2024年度リーダー
人間経済大学
永井 隼人



愛知県自然環境課 課長
酒井 裕史 様

ユース世代が中心となって、生物多様性に係る「保全活動」と「情報発信」に取り組むオール愛知のユース組織「GAIA」は、今年、活動開始から5年目を迎えました。
今年も県内の企業やNPOなど多様な主体と連携し、海岸清掃や外来種駆除等を依頼していただいたほか、「SDGs Aichi EXPD 2023」へ参加し、アイデアが詰まった展示ブースの出展とともに、生き生きとした活動体系をしていただきました。
生物多様性の保全と自然環境の回復は、世界的な課題となっており、おとし、カナダ・モントリオールで開催されたCBD COP15では、新たな世界目標が採択され、現在、各国が目標達成に向けて取り組みを進めています。
日本も「生物多様性国家戦略」を策定し、様々な施策を進めています。中でも「あいち生物多様性戦略2030」を策定し、「人と自然が共生するあいち」を目指して10の重点プロジェクトを掲げ、全力で取り組みを進めています。
これらの世界目標や戦略が共通して書かれているのが、ユース世代による生物多様性保全活動への参加です。ユースの若者は将来、社会の中核を担う存在であり、特に今、様々な取組を進めてくださっている皆様には、ぜひGAIAの活動を通じてさまざまな主体、幅広い世代の方々と交流しながら、フィールドの中でより多くの経験を積んでいただきたいと考えています。同時に、若者ならではの自由な発想力と行動力で、課題解決に挑戦していただき、周囲を引っ張ってほしいです。
皆様のこれからの益々の活躍を期待しています。

We are GAIA

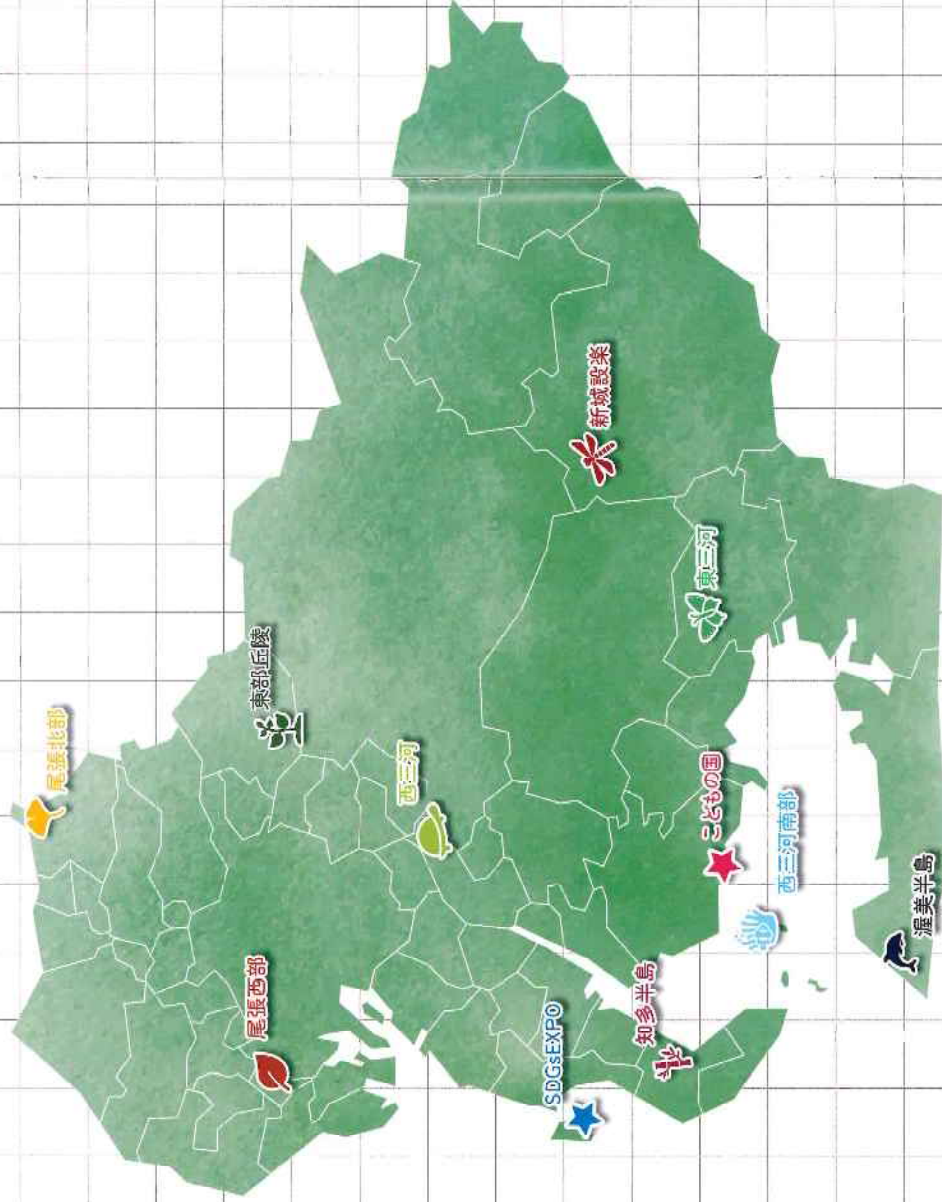


守る、広げる、つなぐ。

保全活動を学び、体感し、伝える。
生物多様性を守り、広める活動を行っています。

Activity map

2023年度は9つの地域の協議会が主催する活動への参加に加え、自主企画活動、各イベントへのブース出展など様々な活動を行いました。



GAIAとは

INDEX & MAP

竹林整備体験&竹皿カレー会

海岸清掃で考える海洋ゴミ問題

アマモ場再生活動&島内サイクリング

里山と湿地の自然ウォッチング

湿地は希少種の楽園！～湿地調査体験～

池の水を抜く大作戦！企業と共に外来種問題を考える

『自然再生』とは何か？～草原再生を学ぶ～

人の手で守る“里山”～里山整備体験～

建設工事が自然環境を守る？～エコミューティング体験～

Special Activity #1 GAIA自主企画 in 愛知こどもの国

Special Activity #2 SDGs AICHI EXPO 2023

Another Activity 2023

連携活動企画 GAIAxcollaboration / GAIA INFO.

メンバー紹介

WHAT'S GAIA? メンバーヘインタビュー2023

GAIAへのメッセージ

編集後記

index



アマモ場再生活動&
島内サイクリング

DATE : 2023/06/18 (SUN)

PLACE: 西尾市 佐久島

佐久島の海をもっと豊かに

活動報告

この活動は、「佐久島の海をもっと
豊かにしたい」という思いで、平成13
年に一人の若手から始まり、いまは
アマモの群生からアマモ場（堤場）
は、稚魚やアザリなどの生育のために
重要な環境です。アマモ場の再生をす
ることは、海の生物多様性を高めるこ
とにつながります。

島民や島の漁師のみならずはじめ、島外のボランティアの方も参加し、アマモ場やアサリの調査、アマモの移植、海岸の清掃など、豊かな海ののための活動を行っています。

【アマモ場写真活動】
まず海に入り、浅瀬で言ったアマモを採取しました。次に麻、おもひ、石紐を用いて、アマモの茎の役目である麻ポットを作成しました。最後に、別々の材料に穴を穿り、完成した麻ポットを植えました。アマモは海よりも根が大切なので、根をしっかりと埋めることを意識しました。

【屋内サイクリング】
午後からは自転車道を走り、道に分かれて奥内を観光しました。
自然だけではなく、先久島のアートなど様々な魅力に触れ、アロマ調整などの活動はこのようにな自然からの恵みをする事につながるといふことを学びました。

活動を通じて

今回の活動を通じて、生物多様性の大切さについて学ぶことができました。アマモ場を移植することで海の生物多様性を重めるとともに、自然環境の大切さに触れることの重要性を知りました。

午後からの豊内サイクリングでは、佐久島の名物を堪能したり、おびるねハズなど島のあちこちでアートの魅かれることができた。今回の活動で初めて佐久島を訪れましたが、とても充実した一日で、魅力的な場所であることを感じました。改めて、この魅力的な場所とその環境を守っていくことの大切さを学んだ一日となりました。



人口200人のこの島では、島の活性化で一働きをされているのはアート作品を島内に置いて、アートの力で島を盛り立てる事です。昨年度、島の人口増加するために参加したアートの活動に、島の人々が熱心な反応を示しています。それによって、島民が自分たちの島を誇りに思っていることがよくわかります。無国籍のアーティストは、島民が誇りに思っている島を、自分たちの作品で表現しています。



西尾市 交流共創部 佐久島振興課

里山と湿地の自然ウォッチング

DATE: 2023/07/02 (SUN)

森の上野市
PLACE:

里山を次の世代へ

環境モニタリング

調戸市向東部に位置する大きな里山である。海上の森を訪れました。

この環境を守り、次世代へ繋げるために、海上の緑の会のみなさんは積極的に里山を整備し、植物や野生生物が住みやすい環境を造ってきました。

また、環境実生活動に加え、地域の人間向けに自然ウォッチングを企画し、環境問題について考える機会を作ったり、海上の緑の歴史や文化の継承・PRを重めてきました。

活動メンバーは高齢者が多く、今後はユース世代を取り込み、他団体とも協働していきたいと考えています。

海上の森には、森林地帯、湿地地帯がそれぞれ広がっており、各所を見回ることができるよう散策コースが設けられています。

全
里山地域では、ハナニガナなど、二
国に広く分布するよるような植物から、二
ワウルシと呼ばれる重点対象外来種の
植物も確認することができました。ま
た、ケヤマウコギ、コ克蘭といった
希少な植物たちも確認することができ
ました。

湿池地帯では、日本最小のトンボと
して知られるハッチョウトンボを確認
することができました。

活動を通じて

今日の活版屋を覗き、より一層、多様な性格、車輪についての知識を深めることができた。

図鑑の図鑑ではなく、実際に自分の目で実際に観察することで、様々な発見があったり、より詳細に物の仕組みについてのイメージを持つことができるようになった。また、メンバー各々が「自然現象について、あまり知らないことが、自然現象にも、里山に興味をもちてもうらやまに思っていたらいいのさ。」「さ、第三者に頼ろう相談で済ませる」とかでき、皆三者にやるべきことと重要性について、確認することができた。



NPO法人 海上の森の会

『自然再生』とは何か？
草原再生を学ぶ

DATE : 2023/09/23 (SAT)

PLACE: 豊川市 東三河ふるさと公園

自然豊かな東三河地域を守るために

東三河ふぶるさと公園では、「失われた里地・里山」を後世に残すために」というテーマで多様な自然環境の保全と力やネズミが生息・繁殖できる里地を目指し、活動が行われています。

また、東三河ふるさと公園をSDGsの
ゴール15「陸の豊かさを守る」の活動
拠点とする旨がめざされている。動
画「東三河地帯環境リダー」の万は、雪
かき自然環境のある東三河地域におい
て、自然環境の保全・再生、自然の癒
えを模索されている。さらに、地場
力による地域活性化や、地場産品と全
国流通した普及や普及啓蒙活動や自然環境保全委員会に取り組
まれている。

自然を楽しく学ぶ活動

【南生調査】
公園の山野草園に行き、植生調査を行いました。1メートル四方で囲まれた、
園の植物を調査し、植物ごとに数度、
植生調査をしました。

【追迫、外来種イヌ取りゲーム】
イベントに参加した子どもたちと合流して山奥山奥で遊遊しに行きました。ハッパやイナゴを捕まえて観察し、夏筈と見比べてどの虫が違いました。在来種のイヌ取りゲームを行いました。在来種の植物が少ない場所では、外来種の植物やその他の在来種の植物が侵入したら、その場所の生態系はどのように変化するのかゲームを通して楽しく学ぶことができました。

知ることの大切さ

活動を通じて感じて感じたことは二つです。一つは人と自然の間わり合いが適度に保たれた環境を維持していかなければいけないということ、もう一つは人の手を加えた所を中途半端に放らず、最後までコントロールする責任が私たちにはあるということです。

にはあるということですが、
多くの人がある責任に気づき、自然
に、今回のような活動に参加し、自然
に心を開き、つづいてこれが大事だと思ひます。
子どもも向かいイベントに参加した子ども
もたまたま、玉を動かせることもなく、玉
についても自然と多く話しかつたのです。日
頃から子どもと多く関わっているこの人
たちもまたものように、より多くの人が小
さい頃から自然と関わりました。

[illegible]

東三河自然再生推進事業
地域環境リーダー活動アドバイザー

人の手で守る“里山”

DATE: 2023/10/22 (SUN)

PLACE: 犬山市犬山里山学研究所

里山の保全を旨指して

犬山里山学研究所は、愛知県北部の犬山市で生物多様性の保全活動を行っているNPO団体です。

主に70代の方々が人工林を整備したり、里地の希少な植物の保全のための活動を行ったりしています。

そのような状況を急須し、同研究所は犬山市が協定を結ぶ国有林で、ビノキの手入れを始めました。

また、若い世代が自然に親れて楽しむために小中学生や若い世代の嫁や嫁の場を設けることも運動の一環として行っています。

次世代へつなぐ

午前にはヒノキの除伐作業を行いました。昨夜により立派なヒノキが育つただけでなく、小松やサトウなどとの生垣も揃って咲けるそうです。とはいえ、このヒノキが成長するにはさらに20年以上の年月がかり、この除伐作業がすぐく定期的にまたらさなければなりません。後々の70代か80代は除伐を「将来世代のための活動」と表現していて、同研究科が後の世代を育てるための準備を行っていることが伝わってきました。午後には町内の道の境域のきましました。

観察しました。2011年から2016年には、
けて恩地岬に歩道道を整備し、訪れた
人々が周近で稀少植物を見られる環境
を整えるそうです。また、ヒノキを伐
採することで稀少植物が受け取る日光
や水量を増加させ、湿地植物の個体数
を増やす取組みも行われています。

然
若
い
世
代
と
自
然

天山里山学研究所の方によれば、現代の子どものほとんどは山で作業をしたり遊んだりした経験がありません。というのも、その新世代も山や森と関わってこなかったからです。

「自然環境を維持するために、いつか新たな世代が活動を受け継いでほしい」という想いから、同研究所は元々の小中生、GAIAユースのような若い世代の世代交替を遂げ入れていた。

将来まで自然環境を保全するため、大里山学習研究所のみならず、そして私たちのような若い世代が、この里山を守る役割を担っているのだと強く感じました。



現在の目標は、林に遊歩道を整備し自然を満喫できるようにエリアにすることです。そうすることによって住民が里山に意識を向けられたいという思いです。

活動の強さをいううえで例を挙げます。メンバーが苦痛に人手不足が深刻になっていること。最大20名ほどのメンバーは東寺ではおぼろげには通歩しています。そこで、今回の活動のようにGAIAーブレイクや地元小中学生を受け入れ、若い人たちに活動を経験してもらっていいと思います。将来は自然環境を維持するために活動に参加し、若い世代と関心します。



NPO法人 大山里学研究所

SDGs AICHI EXPO

- 2023 -



DATE : 2023/10.05(THU) - 07(SAT)
PLACE : Aichi sky expo (愛知県国際展示場)
ABOUT :
SDGs時代に相応しい展示に力を入れた新しいイベントナートーショ
アの開催を目標し、企業や団体、NPO、学校、大学など
多様な主体が参加し、多世代が連携して開催されたイベン
トです。GAIAとしての参加は今年度で3回目となりました。

1

EXPOに向けてのミーティング & 展示物制作

6月初めにEXPO班として参加したいメンバーを募り、出展に向け活動しました。どのようなターゲットに何を伝えるのか...ユースメンバーで何度もミーティングを重ね、当日までの制作スケジュールを確認し、制作を進めました。GAIAも今年度で3度目の参加ということもあり、昨年以上に様々なアイデアが湧きました。メンバー全員が積極的に参加した結果、多くの展示物を制作することができ、ブースを賑やかでGAIAらしい、楽しい雰囲気にすることができました！

2

GAIAブースにて様々な方との交流

EXPO当日は、活動でお世話になっている地産地消会、行政、企業など様々な方と交流することができました。来場にお会いして、日頃の感謝を直接伝えることもできました。また、高校生以下の子供や若い世代との交流もできました。お互いに行っている活動内容を共有し有難い時間を過ごしました。今回は、ポスターセッションやグループディスカッション、他団体と合同のスタンディングラリーを行い、新たなコンタクトにチャレンジすることができました。これをきっかけにGAIAのブースに興味を持ってくださる方もいたのではと感じました！

3

ステージでの活動発表

今年度のEXPOでも、愛知県ブースにてステージでGAIAの活動発表を行いました。GAIAの重点目標である「広める」ということに則して、ユースメンバーがフューリング活動で盛り込むことを目標で伝えることは大切だと考えています。そのため、今回は多世代生物多様性、GAIAについて、多くの方に関わってもらおうことができ、嬉しく感じました。今後もGAIAで様々なことに挑戦し、成果を披露できるように頑張っていきたいと思っています。

出展の3日前が終了したときにはホッとしました。展示物制作や運営など大変な事はたくさんありましたが、やり遂げることができ、自分たちで準備したものが多く、様々な方と交流する中で、GAIAの活動に興味のある方、そして応援してくださる方がたくさんいることを実感することができました。展示も昨年度からさらにレベルアップすることができました。準備から当日まで関わったユースメンバー、お世話になった方に改めて、お疲れ様でした。ありがとうございます。と伝えたいです。

出展を
通して

Another Activity 2023

私たちがGAIAは外部の活動や催しにも積極的に参加しています。そこでは様々な分野の社会問題の解決に取り組んでいる団体や仲間と協力関係を築いたり、アイデアのインスピレーションを受けたりしています。そうすることで視野を広く持つことができ、GAIAのよりよい活動と成果につなげています。



3/5 (sun)

生物多様性 ユース交流会



生物多様性ユース交流会は、愛知県内で生物多様性保全活動をしている学生団体が集まり、日頃の取組の成果や課題を共有することで、ユース同士の交流を促進する、今回とにも親睦強化につなげるためのイベントです。今回は6団体が集まり、3つのテーマに分かれて話し合い、その後発表をしました。ここで出た、団体同士が交流する場を設けるといふ案を今年GAIAは実行することができました。



4/29 (sat)

スコジズマケット

このイベントはサステイナブルな日常を体験することのできる催しです。イベント終了時にはほとんどゴミが出ないで、普段の生活を振り返るきっかけになります。このような持続可能な生活スタイルが今後さらに広まってほしいと思います。また、開催が4月ということもあり、当日はGAIAの活動に初参加のメンバーとも対面交流することができました。



毎月第3日曜日

定期ミーティング

毎月1回開催する定期ミーティングには、ユースメンバーをはじめ、愛知県民の方や事務局も参加しています。ユースメンバーからの活動報告や、事務局による生物多様性についてのレクチャーの場でもあります。今後の予定や活動状況などを共有することで、約100名の団体であるGAIAの円滑な組織運営を実現しています。



5/21 (sun)

西尾市オオキケンイギク 駆除活動



このイベントは矢作川の河川敷に隣接する、増え続ける生物に悩まされているオオキケンイギクを駆除する活動です。今年は全体で20人以上の参加があり、なんと2時間ほどの活動でミニバンに満ちるほどの量の駆除することができました。毎年オオキケンイギクが増えていることが懸念されているので、来年度以降の活動も楽しみです！



12/17 (sun)

愛知淑徳大学 CCCコラボメッセ

コラボメッセは、各分野から持続可能な社会実現へのアプローチをしている団体が集まる場です。お互いの活動を紹介しあえる場があり、つながりを持つことでより質の高い活動にしていけます。今回は初の開催でしたが、多くの団体の方とつながることができ、新たな発見もありました。このつながりを大切に、いつか共同活動もしてみたいです。



活動を
振り返って



Collaboration Partner 連携団体の紹介

命をつなぐPROJECT

命をつなぐPROJECTは知多半島の国語部にある「工業の森」を拠点に、企業と連携して生物多様性保全活動を行っています。また、子ども向けに環境教育として、企業緑地を訪問した自然とふれあうエコバスツアーを企画し、全員のバスツアーで生物多様性を学ぶエコ講座も開催しています。

Collabo review by

GAIAさんとの活動は初めてでしたが、お互いに生物多様性保全という同じ目標に向かって活動していることが知り、貴重な情報交換の場になりました。活動フィールドの違いがあるからこそ、新鮮な気づきを伝えあうことができました。今後交流を深められたいと思います。



SAGA
SDGs AUE Global Action

愛知教育大学学生団体SAGAは、2023年度の活動としてクラウドファンディングを行い、四三宮地区の小学校216校にバイオミミクリートラップの寄贈・研修を行いました。また、様々なイベントへの出展や、小学校での出前授業を通して積極的に活動されています。



GAIAは今年度、SNSでの発信に加えて、より多くの方に生物多様性について、GAIAについて知ってもらえる機会を設けようと考え、様々なことにチャレンジしました。今後も情報発信活動を進めます！

Collaboration summary 連携・合同活動の経緯

2023年の3月に行われた「ユース交流会」にて、「他団体との連携」というアイデアが出ました。その基盤に向けて、2023年度は新たな試みとして、愛知県内の3つの学生団体の団体と連携し、様々な活動を行いました。

連携させていただいた団体と、その活動をご紹介します！



命をつなぐPROJECT



SAGA



参画と資格

SDGs AICHI EXPOにおける
3団体合同スタンプラリー

2023年4月23日(日) | 西尾市 愛知こどもの国

竹林整備 & 展示物作成



「SAGA」：「命をつなぐプロジェクト」と合同でタケノコ掘りを行いました。タケノコを掘るだけでなく、一人一人の思いを込めて、また、牛糞は3団体合同で展示物を作成しました。各団体の紹介や展示物などを並べたので、こどもの国に来た子どもたちにも活動を知ってもらえ、きっかけになればと思います。

Collabo review by

わたしたち「人間環境大学 環境クラブ参画と資格」は「参画する」には知識が必要となる、という考えのもと、野外活動と資格の取得を2本柱とし活動しています。SDGs AICHI EXPOではGAIAのみならず本をはじめとする他団体の方とスタンプラリーを実施することにより、多くの方にブースへ足を運んで頂くことができ、とても嬉しかったです。

Collabo review by

今年は、既存の教材に対して「この学年にはどのような伝え方がよいのか」を中心に考え、わかりやすくかつ楽しく伝えることを目標に活動を行うことができました。伝える側の私たちも成長できた1年だと考えています。

TOPIC 01 GAIAのHPが新しくなりました！



HPのリニューアルでは、「見ていて楽しく、ワクワクする」テーマに制作を行いました。そのため、活動中のGAIAメンバーの明るい表情や思わず「まじっ！自然の風景写真」を多く載せました！情報発信低メンバーが主体となっており、HPという媒体を通して、どんな見せ方が人を惹きつけるものだろうと考えながら制作しました。情報発信という視点から、大きな経験になる活動でした。

最後に、HPを通して、GAIAに入るきっかけや自然環境に興味を持っていただけで、制作に関わった一言一語によって幸いです。ぜひググってください！

Collabo review by



2023年の情報発信活動の製作期として、GAIAが所有するHPのリニューアルを行いました。

GAIAの強みとして、HPの更新頻度の低さが等があり、その強みを解消するため、大塚の上岡和弘教授と、大塚大附属のエースメンバーのものと、1年という製作期間を費やしHPのリニューアルをすることができました。



TOPIC 02 GAIAオリジナル絵本 公開中！

GAIAオリジナル絵本制作は、フィールドでの活動で感じたこと、学んだことを分かりやすく伝えたいという思いから生まれました。子ども向けに制作していますが、大人の方からも生物多様性について知ることでできる内容となっていると思います。絵本制作は、生物多様性について改めて考えるきっかけとなり、自分たちにとってもよい影響のある活動です。内容決めから、絵を描き、色を塗るところまですべてメンバーで行っています！

たくさんの方に読んでいただけたら嬉しいです！今年度は、SDGs17にちなんだ（Webサイト）さんで、GAIAオリジナル絵本3作を掲載していただきました。電子版のほか、実際に印刷して絵本を製作できるデータも公開中です。ぜひご覧ください！



